

中国・四国圏の持続可能な 地域づくりシンポジウム

—創造的人材と地域住民、行政の3者が連携した新しい取組み—

報告書【概要版】

令和元年12月
中国・四国圏広域地方計画推進室

1. 開催概要 2

2. 開催趣旨説明 3

3. 講演会 4

中四国圏における田園回帰と新たな住まい方	4
関係人口による地域づくり	5

4. パネルディスカッション 6

テーマ1 中国・四国圏域の持続可能な地域づくりのあり方	6
テーマ2 上島町の地域づくりのシナリオについて	9

5. アンケート結果 10

シンポジウムの参加者	10
シンポジウムの満足度	11
創造定住拠点形成施策について	12

1. 開催概要

主催：中国・四国圏広域地方計画推進室（中国・四国地方整備局内）

共催：上島町、国土交通省国土政策局、土木学会四国支部

後援：愛媛県

開催日：令和元年11月12日（火）

会場：上島町地域交流センター

<プログラム>

■開会挨拶

- ・国土交通省四国地方整備局 次長 浅野 敬広
- ・上島町 町長 宮脇 馨
- ・国土交通省国土政策局
広域地方政策課 課長 伊藤 敬

■開催趣旨説明

国土交通省四国地方整備局
事業調整官 宮武 敏男

■講演会

議題：中四国における田園回帰と新たな住まい方
（一社）持続可能な地域社会総合研究所
所長 藤山 浩

議題：関係人口による地域づくり

徳島大学総合科学部 地域計画学研究室
准教授 田口 太郎

■パネルディスカッション

前半テーマ

中国・四国圏域の持続可能な地域づくりのあり方

後半テーマ

上島町の地域づくりのシナリオについて

コーディネーター

（一社）持続可能な地域社会総合研究所
所長 藤山 浩

パネリスト

- ・徳島大学総合科学部 地域計画学研究室
准教授 田口 太郎
- ・株式会社sotokoto online 代表取締役
月刊ソトコト 編集長 指出 一正
- ・キャリアコンサルタント・日々(株)
代表取締役 ヒビノ ケイコ
- ・まるふ農園 おかみ（上島町移住者） 藤巻 光加
- ・上島町 企画情報課 政策推進室 室長 檜垣 明宏

■開会挨拶

国土交通省中国地方整備局 副局長 富田 耕司

2. 開催趣旨説明

説明概要メモ

- ・シンポジウムの目的は、①新たな施策「創造定住拠点形成プロジェクト」の紹介、②創造定住拠点形成を後押しする田園回帰・関係人口に関わる最新の知見紹介、③新たな施策「創造定住拠点形成プロジェクト」を進める上で必要な視点・取組課題及び解決策等に関する議論。
- ・「**創造定住拠点形成ガイドブック**は単なる事例集ではなく、創造定住拠点形成に取組もうとする、また更に発展させたい**自治体等にとってのヒント集**。
- ・**創造定住拠点形成の手順とポイント**についてシナリオとして分かりやすく整理。

2. 創造定住拠点形成ガイドブックについて



- ・ **創造定住拠点形成ガイドブックを策定・公表予定**。
- ・ 事例集ではなく、**創造定住拠点形成に取組もうとする自治体、更に発展させたい自治体にとっての“ヒント集”**。

1部 創造定住拠点の定義と期待される効果

- ・ 定義を分かりやすく、期待される効果を定量的・定性的に紹介

2部 創造定住拠点形成に必要な5つの視点

- ・ 創造定住拠点形成に必要な5つの視点を先進事例を踏まえながら紹介

3部 創造定住拠点形成の手順とポイント

- ・ 多様な主体の連携による地域づくりのプロセスを可視化しながら紹介

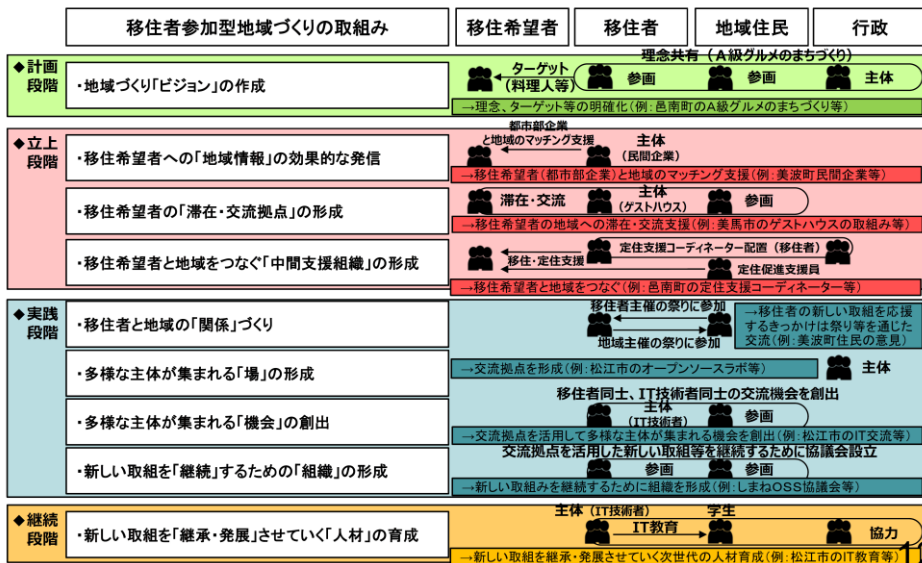
4部 創造定住拠点形成を進めるにあたって

- ・ 中国圏・四国圏連携による創造定住拠点の普及・促進の取組を紹介

6. 創造定住拠点形成の手順とポイント



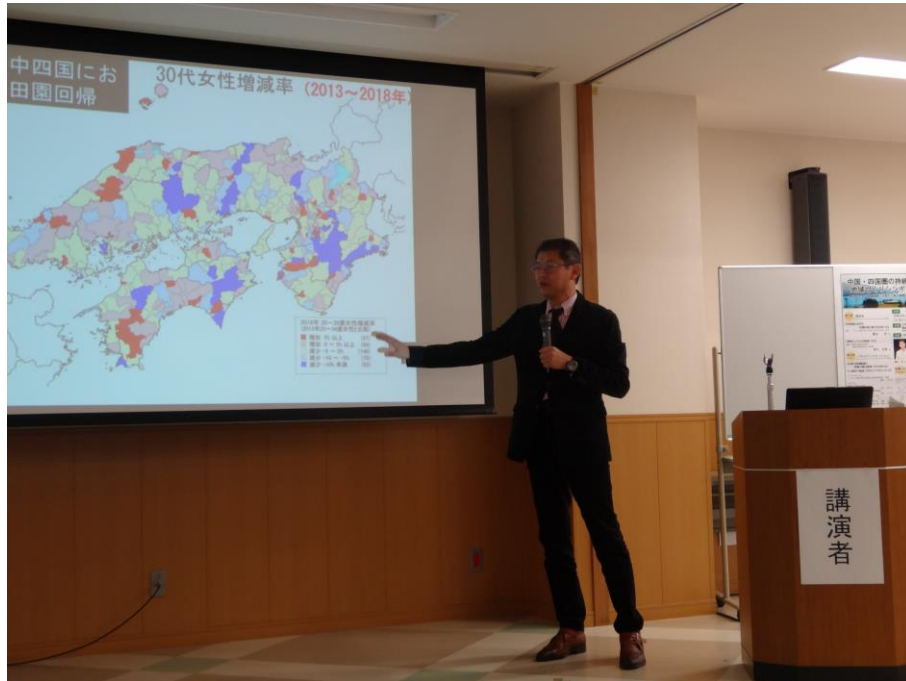
- ・ 先進地域との意見交換等を通じて、**地域づくりの各段階における重要な視点・取組を地域づくりシナリオとして明確化**。他地域への横展開を図る。



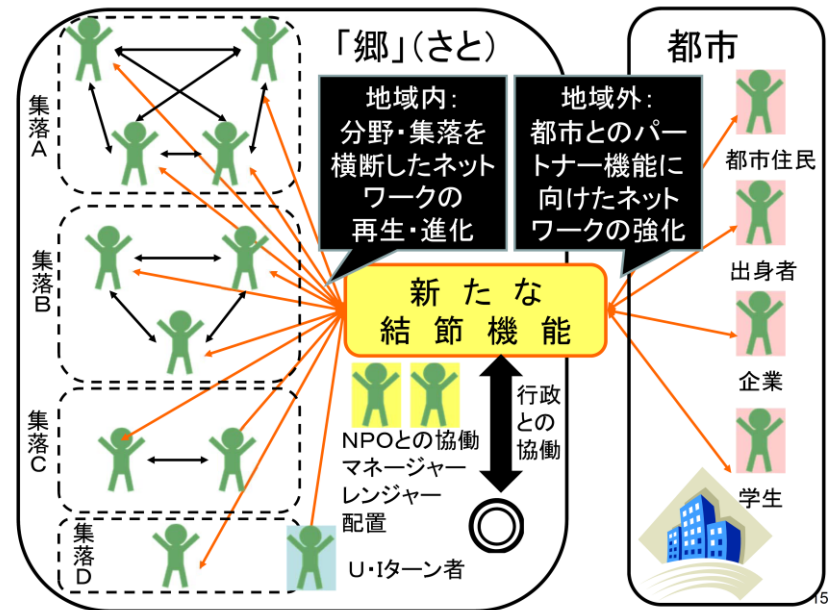
3. 講演会 中四国における田園回帰と新たな住まい方

講演概要メモ

- ・都市近郊はもちろんのこと、30代女性が島や中四国の端っこ(中山間地域)の方で増え始めている。今までの50年間でなかった現象。
- ・上島町でも風向きが変わってきており、社会増では全国20位にランキングインしており、将来的に人口の0.8%が増えるか流出が止まれば、人口が安定化。
- ・人口が減るとネットワーク(人間関係)は2乗で消えていく。今までにない新たな結節機能みたいな人材配置、組織配置にチャレンジすることも重要。
- ・人も物も、外も含めて開放的に行き来する循環型社会を目指すことが重要。



藤山浩先生 講演風景



講演資料一部抜粋 (新たな結節機能)

3. 講演会 関係人口による地域づくり

講演概要メモ

- ・ **地域づくりは自治であり、地域を自分達でどう運営していくか考えていくこと。**
- ・ **移住者・関係人口は地域の自治の力を上げていくときの一つのツール。**ポイントとしては、**地域の人達の独りよがりではなく、両者がWinWinになれるか否か。**
- ・ **地域に住んでいても活躍しない人、住んでいなくても活躍する人がおり、地域を人口ではなく自治力で見ることが重要。**自治力は企画力・実行力により規定。
- ・ まんのう町では転出子（週に2・3回地域に戻る人）懇談会を開催、**転出子ネットワークを活用した地域サポートが重要。**



田口太郎先生 講演風景

人口減少下での地域再生について

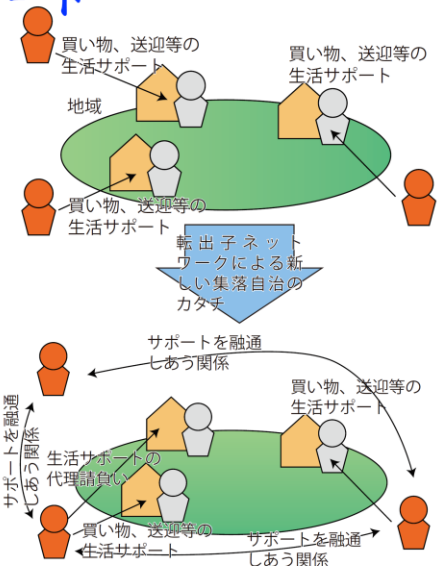
転出子による地域サポート

これまでの各家での家族間サポートの“ついで”に周辺家屋も含めた「集落支援」の可能性の検討

- 見守り
- 買い物
- 水源管理

都合が悪く、実家のサポートに行けない時のサポートの融通可能性

- 「お互い様」による相互支援
- 相互支援後のお礼のあり方



講演資料一部抜粋（転出子による地域サポート）

4. パネルディスカッション

テーマ1 中国・四国圏域の持続可能な地域づくりのあり方

問 中国・四国圏の一番の魅力は？

指出：関わりしろ

・その土地に関われるだけの素地・余白があるのかが魅力であり、中四国は満点。

ヒビノ：ふいに絶景

・余白がある所から創造性は生まれる。こうした場所(瀬戸内)があることが魅力。

藤巻：近っ！

・自然と暮らしの距離や人と人の心の距離が近いところが中四国の魅力。

檜垣：海・山・人

・全ての県が日本海・太平洋・瀬戸内海の海に面し、豊かな山・自然があること。

田口：緩さ

・多様な垢抜けや緩さがあり隙間がたくさんあるところ(お遍路文化の影響も有)。



4. パネルディスカッション

テーマ1 中国・四国圏域の持続可能な地域づくりのあり方

問 持続可能な(長続きする)地域に向けて**身近な地域(地元)**で始めたいことは？

指出：スナックまたは角打ち

- ・誰もが来れて5・10分少し顔を出せる場所、接点・接触率を上げられる場の創出。

ヒビノ：通気性をよくする

- ・価値観や個別な生き方を受入れ、その人の持っているものを活かせる場の創出。

藤巻：学び

- ・子供達が地域を知る取組(かみじま地域研究会キッズ)、楽しい生涯学習の場創出。

檜垣：営業マン

- ・地域の活性化に向けて、町内住民・町外に向けた営業マンでありたい。

田口：路上でおしゃべり テヘッ

- ・関係性を対立的な固い関係から緩い関係に切り替えていくことが重要なはず。



4. パネルディスカッション

テーマ1 中国・四国圏域の持続可能な地域づくりのあり方

問 中国・四国圏域を広くつなぎ、展開していきたいこと

指出：地域を編集する

- ・良いモノ・課題を100個集めて掛け合わせることで、ローカルさ・雑味等が重要。

ヒビノ：多様な仕事と暮らしのデザイン

- ・人によって価値観が異なるが、これを受入れていく風土が重要。

藤巻：エコ

- ・自然があつての人の暮らし、瀬戸内海等中四国全体で守っていくことが必要。

檜垣：瀬戸内海「海道」

- ・瀬戸内海には色々な海道(例：ゆめしま海道)があり、これを活かした連携が必要。

田口：多様性を知り上手に利用する

- ・日本海という豪雪地帯、南国の土佐、瀬戸内海等の多様性を知り、上手に利用。



4. パネルディスカッション

テーマ2 上島町の地域づくりのシナリオについて

問 上島町へのワンポイントアドバイス

指出：「社会」を柔らかく

- ・ビジョンからは生まれない偶発性や社会における内発性等の柔らかさが必要。

ヒビノ：学び自己成長しつづけられる環境づくり

- ・取組を継続するためには、田舎から都会に行き学べる場所づくりが出来ると良い。

藤巻：心と遊

- ・政策検討では人の顔が見えなくなるが、気持ちや遊び心を大切にしたい。

檜垣：新しい風

- ・人がコトが人を呼ぶ循環を生み、人を通じて持続していく地域づくりを行いたい。

田口：形式にこだわらない既にある事を育てる

- ・中間支援組織と形式にこだわらず緩い中間支援人が何人かいる程度で良いと思う。

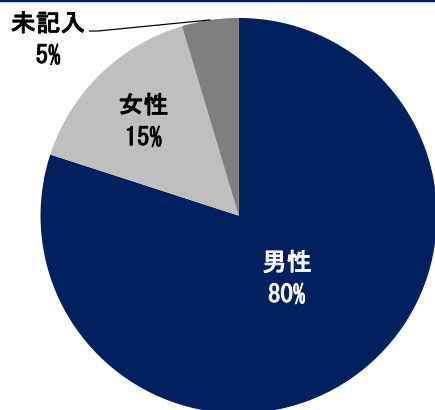


5. アンケート結果

シンポジウムの参加者

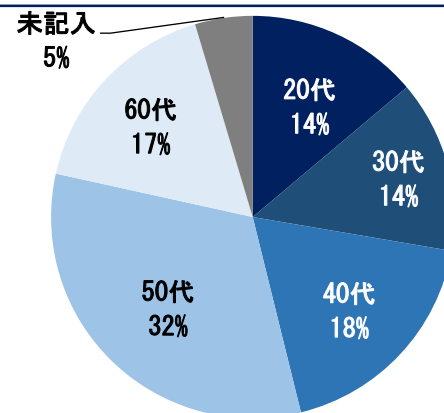
- ・「男性」80%・「女性」15%、年代は「40代」以上が全体の67%。
- ・「愛媛県」・「広島県」からの参加者がそれぞれ全体の約40%。
- ・「行政(市町村)」からの参加者が34%と最も高く、「行政」全体で全体の63%。

Q 性別をお聞かせ下さい。



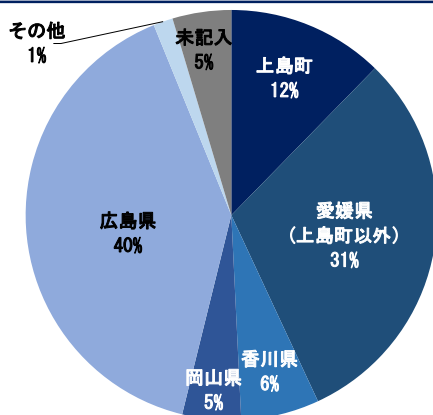
n=65

Q 年代をお聞かせ下さい。



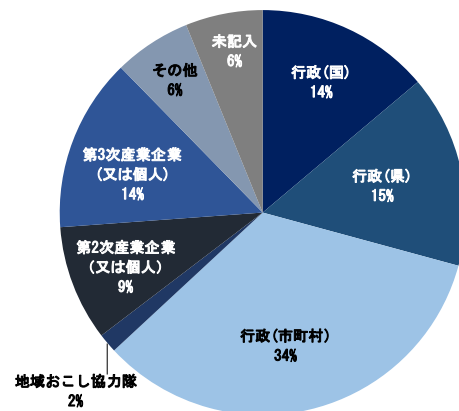
n=65

Q 居住地をお聞かせ下さい。



n=65

Q ご所属をお聞かせ下さい。



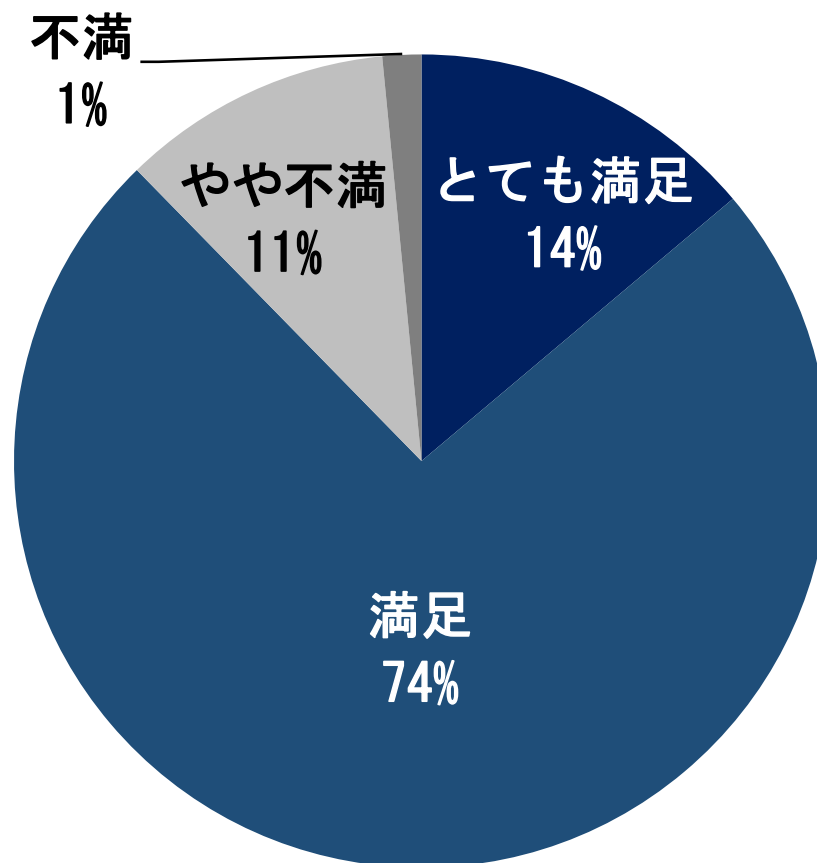
n=65

5. アンケート結果

シンポジウムの満足度

- ・「とても満足」と「満足」を合わせると88%の人がシンポジウムに満足。

Q 当シンポジウムの満足度についてお聞かせ下さい。



n=65

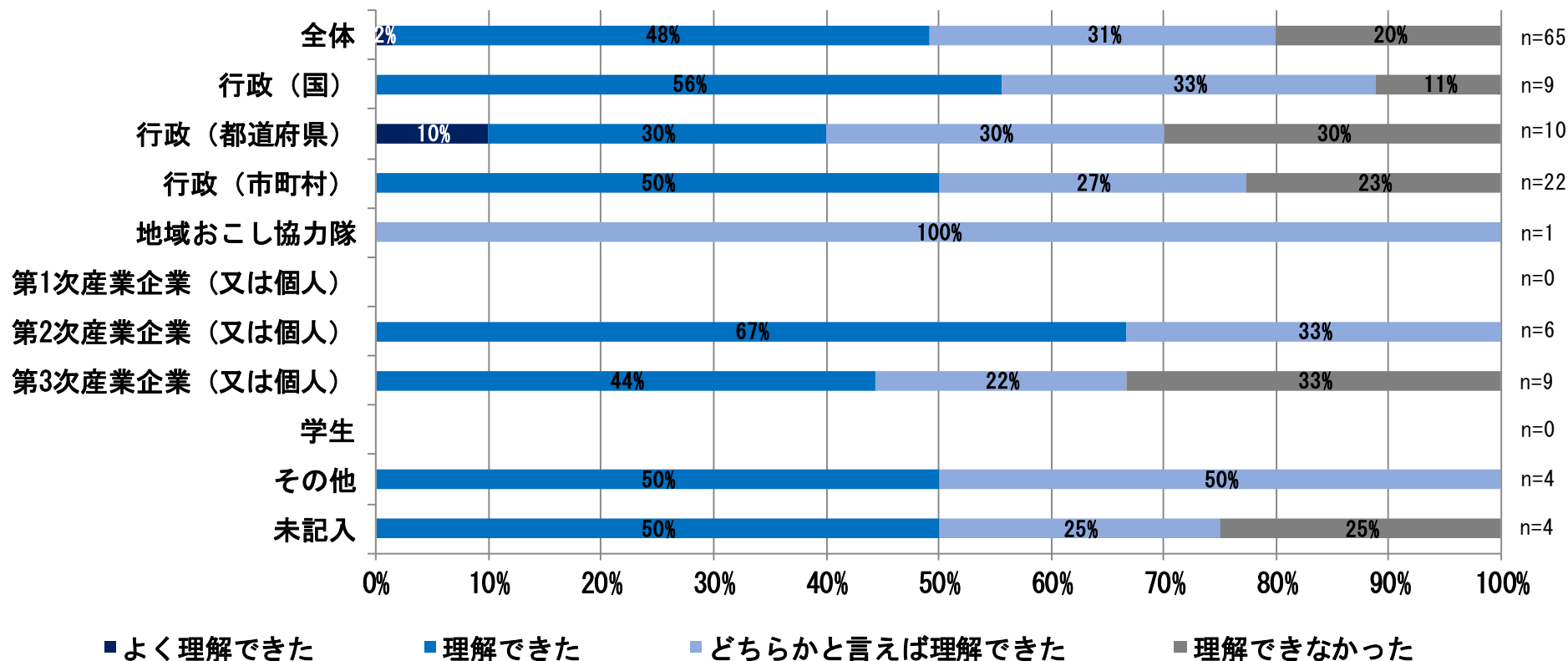
5. アンケート結果

創造定住拠点形成施策について

- ・ 創造定住拠点形成施策について、全体では「よく理解できた」、「理解できた」、「どちらかと言えば理解できた」を合わせると**81%の方が理解**。
- ・ 所属別にみても、少なくとも61% (第3次産業企業 (又は個人)) 以上の方が理解。

Q

創造定住拠点形成施策に関する**理解度**についてお聞かせ下さい。

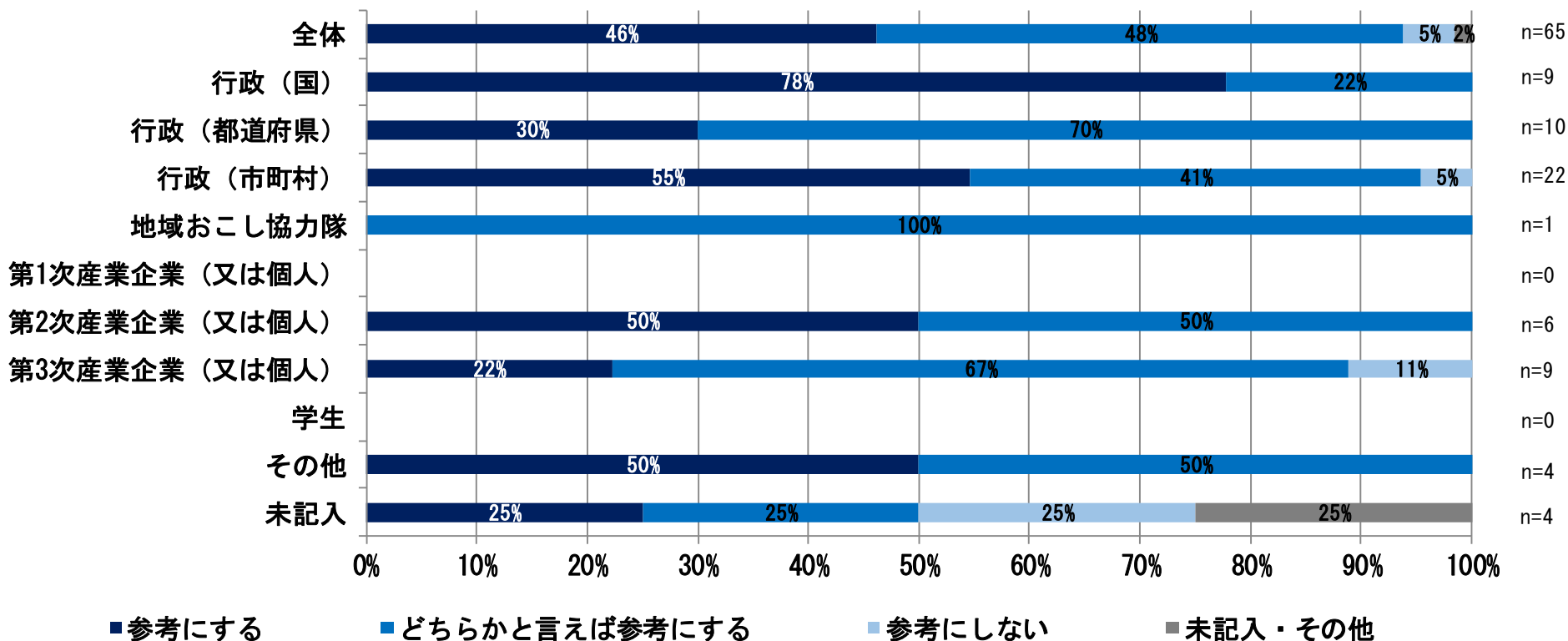


5. アンケート結果

創造定住拠点形成施策について

- ・ 全体では「参考にする」と「どちらかと言えば参考にする」を合わせると**94%の**人が**地域づくりシナリオを今後参考にしたいと回答**。
- ・ 所属別にみても、少なくとも89%（第3次産業企業（又は個人））以上が同様の回答。

Q 地域づくりシナリオを今後参考にしたいかお聞かせ下さい。



5. アンケート結果

創造定住拠点形成施策について

- ・ 全体では「関係人口の増加」への期待が36%と最も高く、次いで「多様な主体の連携の促進」への期待が23%、「創造的人材の増加」への期待が17%と続く。
- ・ 創造定住拠点形成施策の普及・促進の観点からは、「関係人口の増加」に関する理解が最も得られた結果となる。

Q

創造定住拠点形成への期待についてお聞かせ下さい。（複数回答）

